

所属・資格 体育学科・教授

申請者氏名 水落 文夫

研究課題		スポーツ選手のスポーツ・パフォーマンスを予測する感情状態尺度の有用性について
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、開発した「スポーツ選手のスポーツ・パフォーマンスを予測する感情状態尺度 ASSSPP」の妥当性検証を目的とした。ASSSPP は、スポーツ競技における一過性のストレス反応評価機能とパフォーマンス予測機能が期待されている。本申請年度では、実際の競技場面の測定の前に、大学生スポーツ選手を対象とした複数回の質問紙調査により、既存の信頼される感情尺度の日本語版 PANAS との相関分析、実力発揮度との相関分析から基準関連妥当性を検討した。また、快領域あるいは不快領域の感情状態を独立変数、試合の実力発揮度を従属変数とする検証モデルに対する共分散構造分析から構成概念妥当性を検討した。
	研究の結果	開発された ASSSPP の基準関連妥当性（併存的妥当性）を検討するために、「最近の試合・思い出深い試合」を同定させて、ASSSPP の 4 因子（高活性・快、低活性・快、高活性・不快、低活性・不快）と日本語版 PANAS の 2 因子（PA, NA）の相関係数を求めた。その結果、PA 因子に対して快領域因子は正の相関関係、不快領域因子は負の相関関係、NA 因子に対しては両領域因子とも正負逆の相関関係が確認された。 ASSSPP の基準関連妥当性（予測的妥当性）を検討するために、ASSSPP の 4 因子と実力発揮度の相関係数を求めた。その結果、快領域因子と実力発揮度の間で正の相関関係、不快領域との間で負の相関関係が認められた。さらに、実力発揮度の変化に対して ASSSPP は PANAS より敏感に反応していた。 ASSSPP の構成概念妥当性は、それぞれ 4 つの観測変数（感情要素）にパスを伸ばす快領域 2 因子、不快領域 2 因子を独立変数、実力発揮度を従属変数とする独立した 2 つのモデルの検証により行った。共分散構造分析によるモデル適合度指標から、両モデルとも適合度が良好であり、パス係数はいずれも有意であった。
	研究の考察・反省	開発された感情状態尺度 ASSSPP の妥当性を、基準関連と構成概念の観点から検討したところ、感情尺度として信頼される日本語版 PANAS との因子間相関関係、実力発揮度との相関関係、さらには専門競技種目が異なる選手の因子得点の比較により、併存的および予測的観点からの十分な基準関連妥当性が認められた。また、快領域および不快領域の感情状態の概念モデルに実力発揮度を加えて構成された検証モデルに対して、共分散構造分析によるモデル適合度指標は概ね良好な値を示し、ASSSPP の快領域、不快領域の 2 つのモデルの構成概念妥当性が確認された。そして、これらの快-不快次元の感情状態が正負のパフォーマンスに対応していることから、パフォーマンスを予測することが可能と推測された。 ASSSPP の信頼性と妥当性の検証は、未だに回顧的調査によるデータ分析に頼っている段階である。特に、スポーツの現場で起こる一過性のストレス反応評価機能の検証を具体的に進めなければ、ASSSPP はスポーツ現場に有用なツールにならないと思われる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 研究発表：なし 研究成果物：なし 現時点で本年度申請の本研究費による具体的成果を公表していない。作成された感情状態尺度 ASSSPP の妥当性は、現時点で回顧的調査データに止まっていることから、特に実際のスポーツ競技場面での選手の感情状態とパフォーマンスの測定データを加えた上で公表する。	